
依存恋愛

ホミナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

依存恋愛

【Nコード】

N15780

【作者名】

ホミナ

【あらすじ】

主人公のあやかは中学は私立のエスカレーター式的女子校へ入学。

中学に入ってからには男と縁がなくなり、ある日、地元で小学校の時仲良かった友達の一仁かずひとと出会う

- 一仁に遊びに誘われたあやかは、一仁の親友の雄太ゆうたと将英まさひでに出合い・
- ・

プロローグ

中学一年生。

新しい空気、新しい世界、新しい人々

キラキラした女の子だらけの世界に目がチカチカした。

「あ、あやか。久しぶりだねー」

「おー！あやかじゃん！久しぶりー」

ここにいるのは2、3か月までライバルだった人たちばかり。

中学受験で女子校へ来た私。

いやいや勉強する私に親からは「これっきりだから。受験終わったら楽になるから」といわれて頑張った。

私は公立に行く皆とは違うんだ。

みんなとはこれっきりなんだ。

そっという考えから

小学校からろくな生活をしていなかった。

女子から人気の男になんとか惹かれて

好きでもない男に告白しまくって。小学生の興味からか、私が結構

もてたからかほとんどokされて、付き合っては別れての繰り返し。
もちろん女からは嫌われていった。

でも、なんとなく私は

女の子のフワフワした趣味や、独特の集団での甘い会話ができなくて
どちらかといえば男子とギヤーギヤー騒いでいたほうが楽しいタイ
プの男らしい女だったので

女子から嫌われていっても、苦手だったから平気だった。

受験が終わってからの小学校生活は男子とつるんでは悪さして
本当にろくでもない奴だった。

今でも思う。

なんで、あの時、同じ空間にいたあの時は目もくれなかったのに、
今ではこんなにあいつに依存したみたいに何度も惹かれていくのだ
ろう・・・と

小学校卒業式

小学校の卒業式後の謝恩会

親たちが一生懸命セッティングしたであろう中華料理店で開催された

私は唯一の女友達の理恵ちゃんと愛奈ちゃんと一緒にコース料理を
ほおぼっていた

4

親には友達がいなかったか余計な心配させたくなかった

だから時々親のほうをチラッと見る

私の心配をよそに友達のゆうたの親と仲良く世間話に花を咲かせて
いるようで少しほっとした。

その時

後ろからトントンと肩をたたかれる

「おい。仲本」

振り返ると

昨日まで付き合っていた杉田くん

とその仲間たち

「何？」

「いや、あのさ。話したいことがあるんだけど」

杉田は学校1モテる男

卒業式間近に私は告白した

私は当時、モテる男に惹かれていき
好きだと思ったたらどんだん告白した。

幸いモテたのか、フラれることもなく

小学生の時だったから付き合つというのもたかが知れているが
いろんな男と付き合つた

当然、女子は良い気分にはならなくて、嫌がらせも時々あった

でも私の男らしい性格のおかげか、男子との方が仲が良かったので、
気にしていなかった

そんなことお構いなしに告白してはほかの男に惹かれ、また別の男
に惹かれ…と
繰り返してばかりだった

最後に付き合ったのが杉田だった

この時の私も
本気で好きなわけじゃないから長く続くわけもなく

「ごめん。やっぱり好きじゃなかった。」と先日フツたのだった

そりゃあなつとくできないだろう

いきなり告白していきなりフツたのだから。

「話って何かな？」

「あ、のさ。」

下を向いて何かを言い出せないような杉田と
周りから「早く言えよ！」と言われていたその光景に非常に苛立ち
を感じた

「あやかー？」

突然母から声をかけられ振り向くと、母は店を出て車のカギを開けていた

「はい」

「お母さんもう帰るけど、あやかまだいる？」

「あー…と」

チラッと杉田を見ると

焦っているのか口をパクパクさせていた

その姿を見て
何故か私の中の苛立ちがピークになった

「うっん。私も帰る。」

「そう？でもいいの？友達…」

「もう話し終わったから」

呆然とする杉田をよそに
冷たく目もあわずに車に乗り込もうとすると

杉田はポケットに入れていた紙をつかんで私のもとへ走ってきた

「仲本！これ！メールアドレス！」

「え？」

そのまま何も会話のないまま車を走り出した

あれから

私は一切メールしてないし、杉田も私のことなんてわすれただろう

出会い

女子中学に入って一年がたった

二年生になった私もこの女子だらけの学校にだいぶ慣れてきて、友達もできた。

女子校とは不思議なもので、男子の目がないのをいいことに、皆結構たくましくなっていていつている。

ロッカーには洗っていない体操服、飛び交う罵声、暴言
居眠り、早弁などなど…

私も問題児気質で男っぽい所は変わらなく
その性格のせいかな、いろんな人が「おもしろいやつ」と言ってくれて嬉しかった

どこか女子が苦手な距離を取ってたのも事実だけど…

そして

もう一つ変わったことがある。

それは

男が大の苦手になってしまったこと…

同じ年の男子はもちろん

通りすがりの男の人を避けるほどにもなってしまった

一日中女だらけの生活で、男子と接することなんてほとんどなかったし
少女漫画にハマって男性に変な幻想を抱いていたのもある。

「おーい！あやかー！一緒に帰ろー！」

「はやくー！！！」

この二人はゆいとかおる。
二人とも少し変わった人たちで、通学のバスの中でしょっちゅうあつて話しているうちに気が合って、すぐ仲良くなった。

「はいはいはいー。お待たせー」

「今日はどこ行くー？カラオケ？」

「昨日行ったじゃん！」

「じゃあどこ？」

「んー…ボーリングとか」

「ボーリングは先週三回も行ったじゃん」

「じゃあどこだよー！！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1578o/>

依存恋愛

2010年10月12日15時24分発行